

学 会 報 告

文部科学省科学研究費補助金新学術領域研究 「ソフトインターフェースの分子科学」 第1回公開シンポジウム

長崎幸夫*

1. はじめに

平成 20 年度に発足した文部科学省科学研究費補助金新学術領域研究「ソフトインターフェースの分子科学」(ソフト界面)の第一回公開シンポジウムは平成 21 年 1 月 27 日(火)13 時より東京江東区のタイム 24 ビルで行われた。会は領域代表の理化学研究所前田瑞夫主任研究員のご挨拶と領域紹介の後、計画班員の九州大学高原 敦教授、東北大学栗原和枝教授、東京大学高井まどか准教授および長崎が研究紹介を行った。間に北海道大学大学院理学研究院、龔 劍萍教授の特別講演が行われ、また、13 名の計画班員全員のポスター発表が行われた。参加者は産学官併せて 96 名であった。

2. テクニカルセッション

最初に前田領域代表より本領域設立の経緯と 13 名の計画班員が 3 つの班に分かれて取り組む内容の概説があった。高原教授は「親水性ポリマーブラシを用いたソフト界面の構造制御」と題して最近進めている新しいポリマーブラシ設計法を中心に講演された。栗原教授は「表面力より見る高分子電解質ブラシの特性」と題してポリマーブラシの精密な表面力の測定に関して長年の成果とこれからの研究に関する概説を行った。その後長崎が「ポリエチレングリコール密生層の構築と機能」の話を行ったのち、ポスターセッションを行った。ポスターは 13 名計画班全員が発表し、熱のこもった議論が繰り広げられた。

この後、北大の龔 劍萍教授による「ゲルの摩擦と潤滑-生体界面低摩擦の謎に迫る」と題したすばらしい特別講演を頂き、聴衆を魅了した。最後に高井准教授が「リン脂質ポリマーによる界面制御と医療診断デバイスの創製」と題して長年研究されてきた PMPC 界面の解析に関する研究を紹介した。13:00~17:00 と短時間であったものの、内容の濃い議論が繰り広げられた。

3. 交流会

交流会はテレコムセンター展望台に場所を移し、50 名弱の参加であったものの、時間のたつのも忘れてセッションに引き続き領域の内容を理解するべく議論が繰り広げられた。

*筑波大学際物質科学研究センター



図 1. 領域代表の挨拶



図 2. たくさんの参加者と白熱した議論

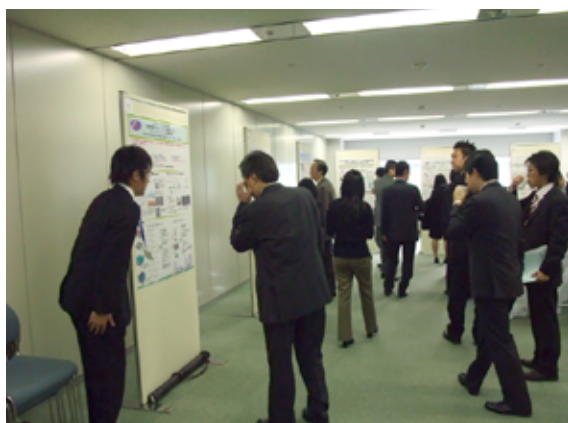


図 3. 計画班員によるポスターセッション



図 4. 北大 Gong 先生の招待講演



図 5. 小林一清先生のご挨拶



図 6. 交流会の様子